

境のデータ取得など多岐にわたっており、地層処分のみならず、今後、様々な分野で活用することができると期待しています。

共同研究としては、既に北海道大学や筑波大学、東京大学などの各大学や幌延地圏環境研究所をはじめとする国内研究機関とスイスなどの国外機関との研究協力が進められています。

## PR施設 「ゆめ地創館」

平成19年6月30日に幌延深地層研究センター敷地内に開設された「ゆめ地創館」は、地層処分の考え方や地底の世界、センターが行っている研究内容について紹介する展示施設です。地下展示室のほか、地上50mの展望室や、地下へ降下するバーチカル・トランスポーター500（擬似体験エレベーター）などが

あり、既に1万5千人を超える方々が来場されています。

## 国際交流施設（仮称）

今年7月に着工された国際交流施設（仮称）は、国内外の研究者の交流活動拠点及び地域住民との交流の場として平成21年秋頃に開館が予定されています。電動式移動式イス160席、補助イス80席の240席を備えた、多目的ホールを中心とした施設です。



国際交流施設（仮称）の外観イメージ図  
（南東方向から）

## 共同研究等

### 沿岸域塩淡境界・断層評価技術 高度化開発研究

平成19年度から、浜里地区を中心とした町内の沿岸域で、陸域から海域にかけての地質構造と地下水の性質などを明らかにする調査技術を開発す

る研究が始まりました。約5年間の研究事業で、ボーリング調査や電気・電磁機探査、地震（音波）探査などを行います。この研究事業は経済産業省

エネルギー庁の事業で、平成19年度は独立行政法人産業技術総合研究所が平成20年度は財団法人原子力環境整備促進・資金管理センターが事業を行っている予定です。本年度は、浜里地区でのボーリング調査、陸域（浜里）での電磁法調査、海域での電磁法調査が実施されています。

## 地層処分実規模設備

今年度、新たに地層処分実規模設備整備事業が、国により計画されています。

高レベル放射性廃棄物の最終処分に向けた理解を深め、安全性を体験できる施設として、深地層の研究施設を活用して整備するものです。実規模、実物を基本として（実際の放射性廃棄物は使用しません）、人工バリアシステムやその材料、ガラス固化体、キャニス

ター等の展示、操業技術や地下での人工バリア実証設備を設置する予定のことです。

